子どもたちの気持ちや個性を尊重できる保育者になりたいと考え、福山市立大学の教育学部児童教育学科保育コースを志望しました。そう考え始めたきっかけは選抜コースでの学びです。私は二年生に進級するタイミングで、総合コースから選抜コースへのコース変更を決断しました。そんな私が選抜コースの授業を通して知った世界の現状、これは私の価値観を変えました。SDGsを踏まえ、幅広い社会問題について出前授業やフィールドワークを通して考える学びをしてきました。特に印象的なのは、発展途上国の女性教育や児童労働に関する問題です。社会の苦しい状況は、罪のない子どもたちを苦しめてしまいます。元々子どもが好きだったので、授業を聞いていて胸が締め付けられるような思いになることもありました。しかし、子どもこそ未来の象徴であり、豊かな生活を守られるべき存在です。一人でも多くの子どもたちが笑顔でいられる、そんな社会になってほしいと強く考えるようになりました。だから教育学部を選び、さらに、学生の自主的な姿勢や、ワークショップの開催や公開講座から、私が理想とする「視野を広く持った大人」という将来像に近づけると考え、福山市立大学を受験しました。学校推薦型選抜は調査書と試験の成績で決まります。倍率の高さから試験にはなかなか自信が持てず、親の了承を得て塾に通い、勉強しました。試験当日は「この三十八人のうちの五人に選ばれなければいけない。」というプレッシャーに襲われたりもしましたが、最後まで諦めずにやり切れたという達成感がありました。その結果、無事に福山市立大学に合格することができ、私は春から教育学部生です。高校での経験を活かし、さらに発展した学びを自発的に深めていきたいです。そして四年後社会に出た時、私には何ができるのか。自分次第であるということが今は楽しみで仕方がないです。